

☆実態及び課題

教科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	積極的に自分の考えを発表する児童もいれば、消極的な児童もいる。 書くことについては、3文程度書くことができるようになってきたが、ひらがなの字形や、助詞「は」「を」「へ」などの、使い方に課題が残る児童もいる。 文章の読解について、正しく読み取ることが難しい児童もいる。	自分の意見を積極的に発言できる児童が多い。物語の読み取りでは、登場人物の気持ちを叙述に沿って考えることができる児童も多い。一方で、「話す・聞く」においては、自分の意見は伝えられるが、友達の意見を最後まで聞くことができない児童がいる。また、「書く」においては、作文用紙の使い方が身に付いていない児童がいる。 【NRT】 どの領域でも全国平均よりも高い。しかし、「書くこと」については、数値が低く、「は」「へ」「を」の使い方や拗長音の理解に課題がある。	物語文や説明文では、自分の考えをノートに書いたり、発表したりする児童が多い。一方で、読み取ったことを自分流に解釈してしまう児童もいる。また、文章をよく読まずに答える児童や、話を最後まで聞くことが苦手な児童が多い。書くことにおいては、漢字のミスや作文を書くことが苦手な児童が多い。 【NRT】 どの領域においても全国の水準より高い。しかし、「片仮名表記」については、数値が低くなっている。	物語や説明文では、叙述をもとに読み取ったり自分の考えを発言したりと意欲的な姿が見られる。自分の意見を積極的に発言する児童も多く見られる。しかし、自分の考えを文章にして書くことが苦手な児童も多い。また、話を最後まで聞くことや要点を落とさずに聞くことが難しい児童も見られる。 【NRT】 どの領域においても全国平均よりも15～20%以上正答率が高い。しかし、「漢字の読み・辞書の活用」と「指示語の理解・丁寧な言葉」の数値が低くなっている。	物語の読み取りでは、自分の考えをノートに書いたり、発言したりできる児童が多い。一方で、作文等で既習漢字を使わずにひらがなやカタカナで書くなど、日常生活で活用できていない児童も多く、漢字の定着に個人差が大きい。また、普段から文字をきれいに書くことに課題がある児童が多い。 【NRT】 どの領域においても全国平均を大きく上回った正答率となっている。しかし、「漢字の読み・辞書の活用」「漢字の書き・修飾と被修飾の関係」については、数値が低くなっている。	自分の思いや考えをもっている児童は多いがそれを意欲的に表現したり、発表したりする児童は少ない。また、自分の考えを伝えることはできるが、友達の意見を聞いて、考えを深めるまでには及ばない児童が多い。また、文章の読み取りが苦手な児童が多く、しっかりと理解しないまま問いに答えるので、ケアレスミスが目立つ。 【NRT】 どの領域でも全国の平均より高い正答率が出ている。しかし、「読むこと」の領域に関しては数値が低く、心情や場面の読み取り、段落構成の理解、要点のまとめなどが課題である。
社会			めあてをしっかりと理解して、調べ学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。文京区の特色を地図や教科書、タブレットを使って調べ、まとめている。一方で、調べて分かったことに結びつけることが、難しい児童も多い。	都道府県に興味をもち、全都道府県を覚えたり、各地の特色について調べたりと関心をもって積極的に取り組む姿が見られた。一方で、資料やグラフを細やかに読み取ることが難しい児童も多い。	日本の食糧生産や土地の特徴に関心をもって授業に取り組む児童が多い。資料から読み取ったことをノートに書いたり、発言したりすることが好きな児童も多い。一方で、読み取った事実を結び付けて考察することが難しい児童も多い。	学習課題に正対しながら、資料(教科書や資料集、タブレット等)から読み取ったり調べたりする力が高まってきた。一方で、調べたことから考えたことを書くことが苦手だったり、学習のまとめの書き方が分からなかったりする児童もいる。
算数	半具体物であるブロックや、丸図で自分の考えを表し、計算することができる。文章問題の読み取りが難しい児童もいる。そのため、聞かれていることに答えることができないという課題が残る。 自分の考えを、順序立てて説明する力を高めていく。	算数への学習意欲が高い児童が多い。ベーシックテストの結果によると、9割以上の児童が1年生の学習内容が定着している。その一方で、加減計算のケアレスミスが多く、答えの見直しの仕方に課題のある児童が多い。 【NRT】 計算領域・図形領域・データ活用の3領域全てで、全国平均よりも高い。正答率も8割程度であり、バランスよく定着している。一方で、理解しているが見直しをできなかったり問題文を丁寧に読まなかったりするために、ケアレスミスが多いところが課題である。	2年生までの学習が定着している児童が多い。単元別のテストを見ると、学習内容の定着度の個人差が大きい。理解している児童の中にも、単位の書き忘れや計算ミスが見られることもある。 【NRT】 どの領域においても全国の水準より高い。しかし、算数「三角形や四角形」の「箱の形・切り開く」については、正答率が低い。箱を展開したものをイメージすることが苦手と見られる。	単元別テストを個別に見ると、学習内容が定着している児童とそうではない児童との差が大きい。特に、割り算の筆算の習得において大きな差がある。 ベーシックテストの結果から、円の特徴を捉えられていない児童が多いことが分かった。 【NRT】 どの領域においても全国平均の正答率を上回っている。正答率も8割と高く、前学年までの内容をほぼ定着できていると考えられる。「表と棒グラフ」においては、棒グラフの読み取りの丁寧さが欠けるという課題があった。	ベーシックドリルテストの結果によると、計算の順序を考える問題や分数の足し算の問題では、正答率が9割を超えている。一方で、立方体・直方体などの図形の問題と小数の割り算の問題では、正答率が5割となっている。また、単位の書き忘れや、問題の読み間違いが多い。 【NRT】 どの領域においても全国平均を大きく上回った正答率となっている。しかし、「角の大きさ」については正答率が低い。図形の性質の理解に課題がある。	自力解決の場面では既習事項を活用し、自分なりに考えをまとめることができる。また交流する中で、解法について理解を広げる様子も見られた。ベーシックドリル診断テストの結果を見ても、8割の児童が既習事項を理解している。一方で習熟度別コースの発展・標準コースでは公式は知っているものの、それに至るまでの過程を既習事項と関連付けて考えることに課題がある。基礎コースでは、基礎的基本的な計算や解法が身に付いていない児童もいる。 【NRT】 どの領域でも、正答率は全国平均を上回っている。詳細に分析していくと、全国平均を下回る問題もあったが、課題があるとまでは言えない。

理科			生き物を育てることが好きだったり、興味があったりする児童が多い。問題に対しての予想も様々な考えをもって観察や実験に取り組んでいた。一方で、「自分が考えた予想から、どうしたら結果が分かるのか考える」という計画の部分が考えられていない児童が多い。	生き物が好きな児童が多く、動植物について興味津々で観察したり調べたりしている児童が多い。様々な問題に対して、自分なりの予想や、話し合いながら実験・観察計画を立てることができる。一方で、結果をもとに考察し自分の考えを表現することが難しい様子が見られる。	メダカの体のつくりや顕微鏡の使い方に関心のある児童が多く、実験では、楽しみながら主体的に学習を進める様子が見られる。仮説を立てて実験し、結果を出すまでの流れはとてもスムーズに行っている。一方で、実験結果から、自分の考えをもつことが難しい児童も数名いる。	学習塾で先行学習をしており、内容を事前に把握して学習に臨んでいる児童が多い。実験に意欲をもつ児童は多いが、実験結果を踏まえ、自分の考えをもったり、今までの学習と比較して考察したりすることが難しい児童も数名いる。
生活	五感を使って、生き物の様子をじっくりと観察し、観察カードに絵や文章で表現することができる。 生き物を大切に思い、世話を楽しもうとしている。	植物の観察を意欲的に取り組む児童が多い。その一方で、虫を見たり触ったりすることが苦手な児童も多い。違いや特徴などの気付きを絵や文章等で表現することは多くの児童ができる。				
音楽	歌唱やリズム打ちなど体を使って表現する活動に意欲的な児童が多い。また、器楽活動も楽器の使い方や音の出し方などを身に付け演奏している。一方で、友達の演奏した音を聴いて合わせる事が苦手で、全体で合奏する時、音がそろわないことが多い。	表現活動・鑑賞活動ともに意欲的に楽しんで取り組んでいる。鑑賞活動の拍の特徴を感じ取る学習では、自然と体が動き身体表現へとつながっている。鍵盤ハーモニカの学習では、息や指の使い方に関心を持ち丁寧に演奏している。一方で、歌唱や音楽づくりの発表では消極的になる児童がいる。	どの活動も意欲的に取り組んでいる。友達と協力して取り組むグループ活動では、自分たちで声を掛け合いアドバイスしながら主体的に取り組んでいた。一方、鑑賞活動において、聴いて感じ取ったことを言葉で表すことが苦手な児童もいる。	歌唱活動では、頭声的な歌声で歌う児童が多い。音楽づくりの活動では、友達と協力して作り自信をもって発表することができた。一方、リコーダー活動では、息の使い方はできているが、タンギング奏でまず児童が多かった。	表現活動を意欲的に取り組んでいる。打楽器の音楽づくりでは、友達と協力し自分たちが納得できる発表ができた。一方、鑑賞活動では、音色や曲想の変化に関心を持ち発言しているが、聴取したことを文章に表すのが苦手な児童がいる。	題材によって関心の差が大きい。合奏や音楽づくりの活動では、意欲をもって主体的に活動できた。一方で、教科書に掲載してある合唱曲や鑑賞などには関心をもてず、活動が深まらなかった。
図工	意欲的に取り組んでいる。粘土や絵の具は、児童の気持ちが高ぶりやすくなる魅力的な素材であるため、前もってルールを伝えておくと、意識しながら取り組むことができる。	どの題材も意欲的に取り組む児童が多い。新しい素材や道具にも敏感で、個々に何度も試したり、より良い物を作ろうと工夫したりして、様々な作品が見られ児童の刺激になっている。一方、敏感であるがゆえに、友だちの作品に思ったことをすぐ発してしまい、そこからトラブルに発展することも多い。	まじめに、どの題材もめあてを意識しながら取り組む児童が多い。試行錯誤をしながらより高みを目指して努力するため、完成度の高い作品が多い。ごく一部で、友だちの意見や表現を受け入れられず、自分を優先し、トラブルに発展することがある。	使う道具が増え、どの題材にも高い関心と意欲で取り組む児童が多い。4年生では彫刻刀や両刃鋸など危険な刃物の扱いも増えていくため、穏やかな気持ちで授業に取り組めるように心がけたい。	題材の目標、各回のめあてを自分なりに理解し、コツコツとまじめに取り組む、仕上げていく児童が多い。一部でなかなか制作に集中できず、図工室内の道具に興味を惹かれてしまう児童も見られる。	題材の中にあるめあてを読み込み、理解し、楽しみながら取り組む児童が多い。一方で何かをイメージしたり、試行錯誤してつくったりすることに抵抗感を抱いて図工とは別の行動に移ってしまう児童もいる。
家庭					初めての調理や裁縫の学習に興味をもって取り組む児童が多い。しかし、基礎的な技能には個人差があるので、完成させることを全員が経験して、1つずつ自信をもたせていきたい。	調理実習や裁縫など作業することには関心が高く、意欲的に取り組む児童が多い。一方で栄養や衣服のはたらきなど、考える学習のところでは意欲をもてない児童も少なくない。
体育	概ね、跳ぶ・走るなどの動きを取り入れた遊びの中で楽しく運動することができた。一方で、勝敗を受け入れて、友達と仲良く運動することが難しい児童もいる。	積極的に運動に取り組む児童が多い。運動に楽しく参加し、できないことや苦手なことにも挑戦しようとする児童が多い。一方で気持ちが昂りすぎて整列、集合、次の行動に移るまでの気持ちの切り替えに時間がかかる。	意欲的に取り組む児童が多い。運動することへの抵抗がなく、どの単元でも準備をしたり声をかけたりして、積極的に活動する児童が多い。一方で、勝敗が絡むものだと気持ちが上手にコントロールできない児童もいる。	意欲的に学習に取り組む児童が多い。一方で、目標や運動の価値を見出せずに、積極的に学習に取り組めない児童もいる。学習カードを通して、目標の設定や、自身の運動の振り返りを行えるようにしている。少しずつ自身の運動を振り返り、そこから次時のめあてをもてるようになってきている。	丈夫な体をつくるために積極的に運動に取り組んでいる児童が多い。技の練習では、アドバイスをしたり、手本を見せたり、自分たちで学び合う姿が多くみられる。一方で、チーム内の意欲に差があり、1人の意見で話が進んでしまったり、練習に集中しすぎて集団で整列、集合に時間がかかったりすることがある。	全体的に進んで運動に取り組む児童が多い。一方で、課題意識をもたずに運動に取り組んでいる児童も多いため、体を動かすことだけに楽しさを感じている。運動能力の差も大きく、器械運動などでは、出来た、出来ないが分かりやすく表れる。

道徳	学習課題に対して自分の考えをもち、積極的に発表することができる児童もいる。また、友達の考えを聞くことで、自分の考えをもつことができた児童もいる。物語を読んで、自分の生活を振り返り改善していこうと意識を高める児童もいる。	それぞれのテーマについての内容がどのようなものなのかを読み取り、深め、自分の考えをもてる児童が多い。一方で、学習で学んだことを生かしきれずに授業内で完結してしまう児童もいる。	教科書をよく読み、登場人物それぞれを自分事に置き換えて、考えることができている。一方で、実際に同じことが起こったときには、相手の気持ちが考えられなくなってしまう児童もいる。	教材文を通して、「自分が主人公の立場だったらどうするか」という視点で考えることができている。また、教材文や全体交流を通して、「人としてどう生きていくとよいのか」ということについて考え、発信することができる。	教科書の話をよく読み、登場人物の気持ちを考え、自分の考えをもてる児童が多い。一方で、学んだことを自分の生活と結び付けて考えることに苦手意識のある児童もいる。	テーマに対して自分の考えをもち、友達の意見も受容的に受け止め、考えを広げている様子が見られる。しかし、一歩踏み込んで考えを深めたり、自分の生活に生かそうと考えてみたりする児童は少ない。
外国語					積極的に友達に声を掛けてペアで話したり、手を挙げて発言したりする児童が多く、英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しんでいる児童が多い。チャンツや歌も声を出して取り組み、暗記して会話の時に役立てている。アルファベットの大小文字、小文字を区別することや丁寧に書くことに課題がある。	英語を使って友達とコミュニケーションを楽しむ姿が見られている。一方で英語に苦手意識がある児童もおり、聞き取りが難しかったり、英語の文を書き出す際もなかなか書き進められなかったりする現状がある。

☆課題解決の視点・手立て ※取り組む内容 課:課題 学:学習形態 発:発問・指示・板書 教:教材の工夫

教科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正
国語	<p>発自分の考えをもてるように、段階を踏む等発問を工夫する。</p> <p>課児童が自ら積極的に取り組める言語活動を設定し、児童が文を書く機会を多く設定することで、正しい文章の書きかたを身に付けさせる。</p>	<p>発段階を踏んで発問することで、自分の考えをもち伝え合う意欲も高まった。</p> <p>課単元の始めに児童の初発の感想や疑問等から学習計画を立て、単元終末の学習活動を設定することで、児童が意欲的に文を書くなどの言語活動に取り組むことができた。</p>	<p>学「話す・聞く」では、話し合いの仕方や、話の聞き方の指導を丁寧にを行う。</p> <p>学「書く」では、作文を書く機会を多く設け、書き方を身に付けさせる。</p>	<p>学話し合いの仕方を具体的に提示したことで、話型を基に話し合いができるようになった。</p> <p>学物語や日記を書く学習を通して、主語・述語を意識して書ける児童が増えた。</p>	<p>教漢字小テストをこまめに実施し、習熟を図るとともに文章の中でも適宜使えるように指導していく。</p> <p>学文章をよく読んで感じたことを伝えるなど、発表の場を増やし、発表の仕方を指導する。</p>	<p>教漢字テストの振り返りをする事によって、定着することができた。</p> <p>また、文章を書く際にも漢字を使うことを意識していた。</p> <p>学文章をよく読んで発表することや、話を最後まで聞くことができた。</p>	<p>教「漢字の読み」では、漢字テストを一週間に1、2回行い、確実に定着できるようにする。</p> <p>学文章を読んで感じたことを友達と話し合ったり、文章に書く機会を作ったりすることで自分の考えを自信をもって伝えられるようにする。</p>	<p>教漢字テストを毎週行い、新出漢字を定着することができた。</p> <p>また朝学習の時間に前学年までの漢字をプリント練習したことで4年生までの漢字の読み書きへの自信をもつ児童が増えた。</p> <p>学考えたことを友達と話し合ったり文章に表す機会を増やしたことで、自分から積極的に意見を伝えようとする姿が見られた。</p>	<p>学漢字学習の際に、どのような場面でその漢字を使うことができるのか話し合う時間を設ける。</p> <p>発丁寧に書いているノートを全体に紹介し、意欲を高める。</p> <p>教教科書に出てくる言葉を辞書で調べさせることで、辞書を使うことに慣れさせる。</p>	<p>学漢字の読み方クイズを出したり作ったりする学習を行うことで、漢字の読みに関心をもって学ぶことができた。</p> <p>発工夫したノートを紹介することで自分なりにノートの書き方を工夫する児童が増えた。</p> <p>教辞書を使う機会を設けたことで、読めない時には、辞書を使うことに慣れた児童が多い。一方で、友達や先生に聞いて済ま</p>	<p>課物語文や説明文の内容をよく理解しないと、答えることのできない問いを用意し、文章をよく読む習慣を身に付けさせる。</p> <p>学同じ考えの人と話し合ったり、違う考えの人と話し合ったりしながら自分の考えをさらに深められるようにしていく。</p>	<p>課授業内で文章を読む機会を多くしたことで、文章の構造や筆者の表現の工夫に気付くことが増え、より深い読みができるようになった。</p> <p>学考えを共有する時間をつくったことが、考えの幅を広げることにつながった。</p> <p>また、ICT機器を活用することで、円滑な共有をすることができた。</p>

										せてしまう場面も多い。		
社会					<p>【学】ICTを活用した映像資料の視聴や、地域の地図を使った学習などを通して実感を伴った理解を促していく。</p>	<p>【学】タブレットを使用することで自分の知りたいことを調べることができ、地図と一緒に照らし合わせて見ることで文京区についての理解が深まった。</p>	<p>【課】授業の導入を工夫し、課題意識をもたせるとして学習のめあてに沿って、何をどう調べていけばいいか自分で計画できるように支援していく。</p> <p>【学】話し合い活動を取り入れ、資料やグラフから読み取った事実から社会的事象の意味について考えられるようにしていく。</p>	<p>【課】課題意識をもって調べ学習を行ってきたことで、学習のめあてに沿って自分で計画できるようになってきた。</p> <p>【学】調べ学習で知った情報を自分たちの生活や社会の様子と結び付け、考えを深めていた。</p>	<p>【学】個人で考える時間、ペアで話し合う時間を確保し、友達の意見を聞くことで、自分の考えをもったり、深めたりできるようにする。</p> <p>【発】学習の最後に、学習感想を書かせることで、自分の考えをもつことに慣れさせる。</p>	<p>【学】1つの資料に対する考えを全体で話し合うことで、考えを深めていく姿が多く見られた。</p> <p>【発】学習のまとめや感想を自分で考えて書かせることで、自分の意見を整理している児童が多くいた。一方で、友達の意見を聞いてそのまま書き写す児童も数名いるため、引き続き自分の考えがもてるように支援する。</p>	<p>【教】児童が関心をもつ教材を精選し、めあてを明確にする。</p> <p>【学】活動の形態やグループ活動の進め方の選択肢を多く提示し、児童が主体的に取り組むきっかけをつくる。</p>	<p>【教】教科書教材以外にも地域教材など児童にとって身近な資料を提示することで関心が高まり、めあてを意識して学習することができた。</p> <p>【学】自己調整学習など自己選択的な学習を多く取り入れることで、児童が自らの考えで学び書き表せるようになってきた。</p>
算数	<p>【発】分かっていることと問われていることに線を引いたり、音読させたりして、問題場面を理解できるようにさせる。</p> <p>【学】話し合いの際に、ペアやグループなど段階を踏んで自分の考えを説明する機会を設けていく。</p>	<p>【発】課題把握では、前時までの学習を振り返ったり、問題文を確認する発問を段階を踏んで行ったりすることで、問題場面を正確に理解できる児童が増えてきた。</p> <p>【学】ペアやグループで話型も活用しながら自分の考えを説明する機会を設けることで、自分の考えを説明する力が高まった。一方で、図や文など適切な説明の手</p>	<p>【課】朝学習の時間に、ベーシックドリルを活用し、1年生の簡単な計算の復習を繰り返し行い、1位数の計算を定着させる。</p> <p>【発】見直しをすることを繰り返し何度も声掛ける。</p>	<p>【課】朝学習にドリルパークを活用することで、全体的に1位数の計算が定着した。</p> <p>【発】声掛けをすることで、ケアレスミスをする児童が減った。見直しを意識できるように、今後も繰り返し指導をする。</p>	<p>【課】朝学習のベーシックドリルや宿題などで、2年生の計算の基礎問題や文章問題に繰り返し取り組ませる。</p> <p>【学】図形の構成は、デジタル教科書を活用し半具体物の操作から、数学的な見方、考え方を養う。量感や宿題などで、問題に取り組ませながら、イメージができるようにする。</p>	<p>【課】朝学習の時間で、2年生の学習の振り返りを行うことができた。単位の書き忘れや、計算ミスが少なくなった。</p> <p>【学】デジタル教科書を活用し、実際に具体物を操作することでイメージができ、理解が深まった。</p>	<p>【課】割り算の筆算に課題があるため、筆算の仕方について全体で振り返っていけるようにする。また、習熟の時間も設定し、完全定着を目指していく。</p> <p>【教】グラフを読み取る力を高められるよう、トピック単元【資料の読み取りの学習】の際は、一つ一つの数値を読み取らせたり、考察を丁寧にさせたりしていく。</p>	<p>【課】習熟の時間を活用して、割り算の筆算に取り組ませてきたが、完全定着までには至っていない。継続して取り組ませていく。</p> <p>【教】グラフから分かることや、各々が考察したことを全体で丁寧に共有したことで、グラフが意図することを読み取れるようになってきた。</p>	<p>【教】図形の学習では、ICTを活用することで、図形の構造が視覚的に分かるように教具を工夫する。</p> <p>【課】基本的な掛け算割り算を朝学習の時間に繰り返し行い、小数の割り算での計算ミスをなくす。</p> <p>【発】単位の書き忘れがないように、授業内でも省略せずに書かせる。</p>	<p>【教】図形の構成を視覚的に学ぶことで理解が深まっていた。</p> <p>【課】タブレットを使った復習時間を確保することで、楽しく基礎学習を進めることができた。</p> <p>【発】単位を意識する児童が少しずつ増えてきた。引き続き授業内で指導する。</p>	<p>【課】カルテを見て自分の苦手領域や課題を認識し、改善の計画を立てる。朝学習と宿題でドリルパークに繰り返し取り組み、基礎的な計算や解法の一層の定着を図る。</p> <p>【課・発】習熟度別コースに応じた学習課題を設定し、主体的に学習できるようにする。また既習事項と公式の関連を児童から引き出したり、教師が適切に教えたりすることで理解を深めさせる。</p>	<p>【課】ドリルパークに繰り返し取り組み、計算などの基礎基本の定着を図れた。</p> <p>【課・発】習熟度別コースの実態を踏まえ、教科書を活用して学習したり、発展的な学習をしたりすることで、児童が主体的に学ぶことができた。</p>

		段を選択して活用出来るよう継続して指導する。										
理科					<p>発観察を始める前に、前に観察したものを振り返り、観察する視点を共有する。観察カードの描き方や留意点も説明する。</p>	<p>発本時の前に振り返りをいれ、学習したことを確認してから始めることで、自分の予想と結果を比べる児童が増えた。また、観察したことを共有し、結果と結び付けて振り返りができた。</p>	<p>教実験内容やその結果・考察が、学習内容に結びつくように、一連の問題解決の流れを明確にし、板書を整理して書くよう工夫する。</p>	<p>教問題解決の流れを整理して板書したことで、予想を立てて実験した後、根拠をもって結果や考察できた。</p>	<p>発既習事項を思い出して考察できるように実験結果のまとめの場面では、既習を振り返って発問するように工夫する。</p> <p>発学習の最後に、学習感想を書かせることで、自分の考えをもつことに慣れさせる。</p>	<p>発既習事項の振り返り時間を設けたり、テスト前に復習をしたりすることで、少しずつ定着を図ることができた。</p> <p>発実験結果が分かりづらいときには、動画を見せることで、全体で結果を考察することができた。考察する過程を大切に引き続き指導する。</p>	<p>発予想や計画も意欲的に考えていけるよう既習の学習を取り入れながら、発問を工夫する。</p> <p>学様々な考えに触れられるようにするために友達との交流を増やしていく。</p>	<p>発既習事項を基に新たな学習の予想をしたり、過去の学習から発展した発問をしたりすることで、学習を積み重ねていくことができた。</p> <p>学予想、考察、まとめなどの段階で、交流する機会をつくることで、様々な考えに触れることができた。</p>
生活	<p>学観察カードをお互いに見合ったり、発表したりする中で、感想の書き方や表し方を共有する時間をつくる。</p>	<p>学観察カードや作品などを見合ったり、質問し合ったりして、感想の書き方や自分の考えの表し方を共有することで自分の考えを詳しく書き表す児童が増えた。</p>	<p>発観察を行う前に、全体で観察の視点や用語の使い方などを共有する時間を設ける。視点を示し、自分の観察カードを描く際に生かせるようにする。</p>	<p>発繰り返し視点を共有することで、観察する時に意識している様子や発言が見られた。観察カードに記録する時は、探検ボードを忘れてしまう児童がいるため、指導する。</p>								
音楽	<p>学器楽活動の題材において、ペア学習やグループ学習を取り入れ、音を聴いて演奏する機会や場を設定する。</p>	<p>学様々な形態のグループ活動を行ったことにより、友達と声や音を合わせる心地よさを感じながら楽しく取り組めるようになった。</p>	<p>教発表で自信をもって演奏できるよう、普段から良いところを伝える。また、児童同士で認め合う機会をグループから全体へと場を広げ、みんなが安心してのびのびと発表で</p>	<p>教器楽活動では、鍵盤ハーモニカから合奏を体験し、様々な楽器に触れより楽しんで活動に取り組むことができた。音楽づくりの</p>	<p>発鑑賞活動において何について聴取するのか明確にする。</p> <p>教鑑賞活動でICT機器を活用する。聴取したことを入力し、友達の意見を共有しながら自分の考えをもたせ深</p>	<p>発鑑賞活動では、ワークシートを工夫することにより、苦手を感じている児童も曲想を感じ取ることができた。</p> <p>教鑑賞活動での</p>	<p>課リコーダー指導では、題材のめあてを明確にし、具体的な目標をもって取り組ませる。</p> <p>発個別指導をしながら基礎的な技能を身に付けさせる。</p>	<p>課リコーダー活動では、徐々に吹く音域を広げていったことにより、技能面で能力を高めることができた。また、ペア学習やグル</p>	<p>発鑑賞活動において何について聴取するのか明確にする。</p> <p>教鑑賞活動でICT機器を活用する。聴取したことを入力し、友達の意見を共有しながら自分の考えをもた</p>	<p>発鑑賞活動では、自分の演奏に生かすなど、聴く目的が明確な場合は、意欲的に取り組み演奏に生かすことができた。課題</p>	<p>教歌唱や鑑賞曲を精選し、めあてを段階的に達成できるよう設定する。</p> <p>学技能を身に付けるために、ペア学習やグループ学習を課題に応じて設定し、協力し</p>	<p>課関心が低かった楽曲でも、活動を積み重ねていくごとに意欲も高まり、曲を仕上げることができた。</p> <p>学歌唱活動では</p>

		た。	きる環境をつくる。	活動では、簡単なリズムを即興的につくり演奏する体験を積み重ね、意欲的に取り組めるようになった。	めていく。	ICT機器を活用は、自分が聴きたいところを繰り返し聴けるようタブレットからも音源を聴けるようにした。そうすることで、自分の意見をもってから、友達と意見を交流し活動を深めていくことができた。		ープ学習も意欲的で、協力して取り組み、個別指導を必要とする児童にも基礎的な技能を身に付けさせることができた。	せ深めていく。	は、関心をもてない楽曲の場合、曲の理解を深めていくことができなかった。関心をもてる楽曲の精選を行い、様々な音楽に触れさせていきたい。	て意欲的に取り組めるようにする。	技能が高いことを自覚させ、認めることで自信をもち、意欲的に取り組めるようになった。
図工	学ペア・グループ学習を取り入れて、お互いの作品に触れる機会を作る。思いついたことや感じたことを話したり、発想を広げる場をつくらしたりする。	学行事を通じて、自分の作品を振り返ったり、他学年の作品を見て感じたことを共有したりすることができた。	発一人一人の表現や工夫を具体的に何が良いのか褒め、しっかり認め伝える。表現の違いがあっても当然であり、どんな表現も尊重される安全な場所であることを伝えていく。	発自他の作品の違いを認め、それぞれの表現を認められるようになった。	教どの子も楽しみ、深められる教材を用意する。 課児童一人一人に合わせてためあてに向かって、スモールステップで進められるよう課題を示す。	教発達段階に合った、題材・教材を用意できた。 課発想することが苦手な児童や、技能面でつまづいている児童がそれぞれ自分のペースで取り組み完成させることができた。	学使う道具や材料に合わせて学習形態を変えて、誰もが楽しめるような図工室ならではの空間を作る。	学彫刻刀や両刃のこぎりなど刃物の扱い方の学習では、自分の作りたい物に合わせて安全に使用することができた。	教児童が扱いたくなるような材料や表現方法を用意する。 発図工と関係ないことをしたり、集中できない児童にはよく話を聴き取り、発想の転換を促す。	教ICTを活用したアニメーションを取り入れた結果、グループや全体で協力しながら楽しんで取り組めた。 発学習規律については引き続き声掛けをしていく必要がある。	教一つの題材の制作にかける時間が限られているので、授業ごとの目標を端的に示し、時間内に無理なく終わらせられるように工夫する。 発指示を明確にする。	教平面、立体、多岐にわたって様々な素材と触れ合い、周りとの共有することができた。 発指示を明確に出すよう工夫した結果、児童自身で自分の作品を深められた。
家庭									学児童に完成した作品を見せ、手順を明確に示す。こまめに机間指導し、声を掛けることで一人一人が自信をもって作品を作成できるようにする。	学調理・裁縫など実習を伴う授業については、多くの児童が興味関心を持ち、手順を理解して進んでいた。理解に時間のかかる児童も、声掛けにより諦めずに取り組めた。	学学習の手順を短い言葉で示したり、師範を実際に見せたりして、自分の力で取り組めるようにする。できないままにならないように、個別に支援を行う。 教裁縫は複数の製作例を提示することにより、実生活で使おうと思える物を製作する。例年より少し手のかかる物も提示し、技能が上位の児童の意欲をさらに向上させる。	学調理については、多くの児童が興味関心を持ち、手順をよく考え、実習に取り組んだ。裁縫は、アートフェスタに出品することもあり、全員が諦めずに製作した。独自の工夫をしようというところまではいかなかった。 教複数の製作例から、自分で選ぶことにより、作る意欲に繋げることができた。

<p>体育</p>	<p>学勝ち負けだけではなく、友達の良かった動きなどを振り返る場面を設定し、楽しく工夫して運動する良さを価値付けていく。 教安全な場の設定の仕方を指導し、友達と協力して場の設定ができるようにする。</p>	<p>学友達の良かった動きや自分が工夫したことなどを振り返ること、次時に向けての目標をもったり、さらに工夫したいことを見つけた。一方で、勝敗を受け入れ楽しく運動することについては、今後も児童の良い姿を紹介するなど価値付けていく。 教安全な場や運動の仕方を単元の最初に重点的に指導し、毎時間の学習の中で振り返ること、友達と協力して安全な場の設定を行うことができるようになった。</p>	<p>課限られた時間の中で、学級全体が怪我なく楽しい授業で終わるためには、自分たちがどう行動どうしたらいいのかを考えさせる。 発学習の最初にどんなことをするのか全体の見通しをもてるように視覚と聴覚で学習内容を伝える。</p>	<p>学怪我やトラブルの経験を通して、どんなことに気を付けた方がいいのか話し合う姿や、友達のことを考えて行動する児童が増えた。一方で強い口調からトラブルになることがまだまだ見られるので、引き続き楽しい授業にするためにどうしたらいいか考えさせていきたい。</p>	<p>学学習を通して気付いたことや考えたこと、工夫したこと等、自分ができるようになったことを認めていく。自分だけでなく他の人の良かったところを話す時間を設ける。</p>	<p>学学習したことを振り返りカードに書くことで自分ができるようになったことや、課題が明確になっていった。また、タブレットを利用して動画を取ることで、自分の課題を見つけ、解決にも繋がっていた。</p>	<p>教意欲的に取り組めない児童がいる。まずは、運動の価値を見出せるよう、児童と共に考えていく。また、体を動かす楽しさや心地よさを感じられるよう、「運動したくなる場＝魅力的な場」を設定したり、適切な価値付けを行うようにしたりする。</p>	<p>教児童と運動の意義や価値を考えたことで、少しずつではあるが、主体的に取り組めるようになってきた。また、「運動したくなる場＝魅力的な場」を意図的に設けたことで、児童が、「やってみよう」「ここならできそう」という思いで取り組めるようになってきた。</p>	<p>学チームで学習する意味について話したり、チーム内でのめあてを立てさせたりすることで、みんなで思いやりをもち、協力して取り組むことができるようにする。</p>	<p>学チーム学習を取り入れたことによって、励まし合いながら互いに教え合う姿が見られた。一方で、意見が違ふ時に譲り合えないこともあるため、引き続き、友達と学び合うことの意義を感じさせていきたい。</p>	<p>課学級全体の課題だけでなく個人のめあてを設定させ、その課題解決のためにどのように友達と関わり、運動していくかを単元を通して考えさせる。 発・教運動特性に応じたポイントを伝え合えるように、児童の姿を取り上げながら運動のコツを考える視点を示す。また運動に関する動画をTeamsにアップし、運動のコツや上手な姿をいつでも確認できるようにする。</p>	<p>課自己の課題を明確にしたことで、運動に対する意欲を高めることができた。加えて、教師側が個人のめあてを把握することで、その子に合った場や教材を準備することができ、技能の向上に繋がった。 発・教ICT機器の活用により、自己の動きを確認したり、手本となる動画を視聴したりと自己の運動技能の向上に繋がった。</p>
<p>道徳</p>	<p>発道徳の学習を日常生活に活用できるように、児童の実生活に関わる身近な発問を準備する。 学教材の内容や道徳的価値について自分で考える時間、友達との対話をする時間を設けた上で、再度自分だったらという視点で考える活動（自己内対話）を設定し、より自分との関</p>	<p>発児童の実生活に関わる発問や、これまでの経験を振り返る発問を行うことで道徳の学習内容を自分事として考える意欲が高まった。 学自分で考える時間と友達と考えを共有する時間を設定することで、初めは自分の考えがもて</p>	<p>学児童の身近にあるものを取り上げ、自身と向き合う時間（自己内対話）を設ける。</p>	<p>発自分の経験や身近な出来事として考えさせることで学習意欲が高まりつつある。 学自分の気持ちや気付きをノートに書かせることで、自己内対話ができ、発言が苦手な児童も学びを深めるようになってきた。</p>	<p>学全体発表だけでなく、小規模での話し合いの時間を設定し、段階的に話し合えるようにする。その中で自分だったらどうするかだけでなく、自分と友達の考えの違いを知り、様々な考えに触れることを通して、自己内対話を促していけるようにする。</p>	<p>学小規模での交流を入れてから、自分の考えを発表できるようになった。話し合いをすることで自分の考えや気持ちと、友達との違いに気付くことができていた。</p>	<p>発自分だったらどうするかという視点や、「人としてどう生きていくのか」ということを考えさせる。その際は、「問い返し」を用いるようにして自己内対話を促し、さらに深く考えられるようにしていく。</p>	<p>発自分に置き換えて考える活動をしたことで、より具体的に自分の生き方について振り返ることができていた。また、「問い返し」を用いたことで、より自分の生き方に向き合おうとする児童が増えてきた。</p>	<p>発登場人物の心情をより深く考えられるような発問、物語から普段の生活に結び付けられるような発問をする。 学ワークシートに自分の考えを書く時間を毎時間確実に確保することで、自己内対話を促していけるようにする。</p>	<p>発普段の生活と結び付けて考えさせることで、自分事として考えられる児童が増えた。 学ワークシートを活用することで、発言が苦手な児童も自己内対話によって学びを深めることができていた。</p>	<p>発全体交流の時間に児童の考えに問い返しを行い、考えを深める中で自己内対話を促す。 学自分の生活を振り返ったり、活かしたりするためにグループ交流を設定し、考えを広げられるようにする。</p>	<p>発問い返しを適切に行い、主題について全体で考えることで、考えを深めることができた。 学グループ交流を常時実施することで、考えを広げることができた。</p>

	わりで価値を捉えていけるようにする。	なかった児童も自己内対話を深めて、授業終末には自分なりの考えがもてるようになってきた。										
外国語									<p>発 アルファベットを学習する時間を確保し、繰り返し練習させることで定着を図る。ワークシートの名前や習った単語、簡単な英文をアルファベットを使って書けるように支援する。</p>	<p>発 4線にアルファベットを書く練習を繰り返し行ったことで、丁寧に書こうとする姿勢が見られるようになった。一方で、まだ大文字と小文字の区別がついていない児童もいる。</p>	<p>教 毎授業必ず歌やチャンツに取り組む。キーワードセンテンスについては曲を分割しながら練習し、通して歌えるようにする。</p> <p>課 単元末のスピーチを単元当初に示し、それに向けて毎回1文ずつキーワードセンテンスを書いていき、スピーチ原稿に生かせるようにし、書くことに慣れさせる。</p>	<p>教 歌やチャンツに繰り返し取り組む中で、その単元でのキーワードセンテンスを聞き取ったり、書き写したりすることができるようになった。</p> <p>課 単元末のスピーチを意識して1時間ごと学習することができた。</p>